未来を担う子どもたちの教育について、
学校・家庭・地域・行政がみんなで育てあうまち・浦安をめざして

特集

平成21年度 浦安市教育フォーラム

『こころを育む総合フォーラム 2009 in 浦安』開催

「子どもたちが夢と希望を持ち、豊かな心を育むために」

毎年恒例の「浦安市教育フォーラム」が、8月29日(土)に
浦安市文化会館大ホールにて開催され、約900人が参加しました。
基調講演や、児童・生徒の生活実態調査、
地域の学校支援活動の報告を受けたシンポジウムでは、
元NHKアナウンサーの山根基世氏をコーディネーターに迎え、
「夢と希望を持ち、豊かな心を育む環境づくり」をテーマに、
各界で活躍中の方々が貴重な意見を交換し合いました。

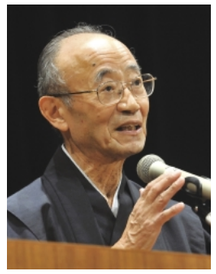
基調講演

「こころを育むとは ～危機と不安のなかで生きる～」

こころを育む総合フォーラム座長　山折　哲雄氏

誰もが知っている昔話、「桃太郎」。この「桃太郎」は、時代と共に物語をさまざまな形に変えてきました。宗教学者でもある山折氏は、民俗学者・柳田國男の著書をもとに、最も古い「桃太郎」には、母と子のきずなが描かれている、と言います。そして「桃太郎」以外にも、日本各地には知恵や情愛に満ちた昔話がたくさんあり、子育てのヒントは、実は足元に転がっているのでは、と提言します。

さらに、自身の体験から初めて知った「出迎え三歩、見送り七歩」の言葉にも触れ、「一期一会」にからめながら、出会いの大切さ、作法、人を思う心について語りました。


山折哲雄

やまおり・てつお◎1931年岩手県生まれ。日本の宗教学者、評論家。東北大学インド哲学科卒業。同大学院文学研究科博士課程修了。東北大学助教授、国立歴史民俗博物館教授などを経て、現在、国際日本文化研究センター名誉教授。著書に『日本宗教文化の構造と祖型』『日本人と「死の準備」』など多数。

最後は、秋葉原での残虐な事件の犯人が発した「自分は社会でたった一人だった」という言葉に注目。この言葉に象徴されるように、現代は、一人不安症の時代になってしまった、と指摘します。「人間は、一人になって初めてものを考える手段が身に付くもの。それから自立し、他人を思いやれるようになるはずです。自立した人間に育てるには、どうしたらよいか。私たちは、昔話や作法から、先輩たちの価値観、理念を学ばなければならない。即効薬などあるはずもなく、年月をかけて育てていくもの。これが、こころを育むことになるのです」と、胸を打つ言葉で締めくくりました。

シンポジウム

「夢と希望を持ち、豊かな心を育む環境づくり」

児童・生徒の生活実態、地域の学校支援活動の紹介が行われた第2部に続き、シンポジウムでは、山根基世氏をコーディネーターに、山折氏と各界で活躍される3人のシンポジストが参加。子どもたちの豊かな心を育む上で、家庭や地域、そして学校の果たすべき役割は何かについて、約2時間にわたり活発な意見が交わされました。

LLP ことばの杜代表
元NHKアナウンサー
山根基世氏

現代の子どもたちを取り巻く社会について、「社会の最小単位は家庭。子どもに与える影響は、家族関係、教育方針によって大きく変わってくる。家庭が最も大切な場ではないか」(滝鼻氏)、「周りに感謝する気持ちや、他人を思いやる心を持ちにくい社会になっている。自己中心的で、物質にもこだわりすぎでは」(遠山氏)、などの問題点が挙げられました。これに対し、松崎市長は「山折氏が先程の講演で、現代は『一人嫌いの時代』であると述べたが、本を読むのは一人でなければ無理。一人嫌いイコール読書嫌いであってはならない。一人で本を読み、一人で物事を考えられる場所が必要。そのために、子どもたちの居場所づくりを推進しなくてはいけない」と、行政の立場から意見を述べました。

前読売新聞東京本社会長
滝鼻卓雄氏

続いて、「豊かな心」とは何か、というテーマについて、「見つめ合うこともせず、互いの肩に手を当てることもない、非対面的な社会になってしまったことと、自らの存在を隠して意見を述べる匿名社会の拡大などが、豊かな心を育む環境を阻害している要因なのでは」(滝鼻氏)という指摘がありました。その解決策として、「ただ生きるのではなく、よりよく生きることに、人としての術(すべ)がある。豊かな心とは、一人ひとりが自分という基本を持つこと。そのためには、自然体験や芸術に触れることが大切。そこから人間の崇高さを学ぶことができる」(遠山氏)などの意見が出されました。これを受け市長は、社会規範を踏まえた子どもを育てたいと展望を述べました。さらに、浦安市内の図書の貸し出し率の高さに触れ、活字に触れることも豊かな心に関係しているのでは、との見解も示しました。

パナソニック教育財団理事長
遠山敦子氏

学校・家庭・地域・行政の果たすべき役割として、「非行に走る子どもは寂しがり屋で、温かい言葉や心のよりどころを求めている。そのためにも、信頼できる大人の存在は不可欠。行政による相談窓口も必要では」(遠山氏)、「『早寝、早起き、朝ご飯』を実行できる家庭が大事。それと、本の読み聞かせが重要だと思う」(滝鼻氏)、「本を読むことは、心を豊かにする。それ以外にも、異なる年齢の人たちとの交流も必要なのでは」(山根氏)、「障がい児教育、少人数教育の推進が必要」(市長)など、具体的な提言が交わされました。

浦安市長
松崎秀樹

最後に、「教育に力を入れることが大切。それには、学校がキーになる。子どもたちが最初に出会うソサエティーでもある学校は、異文化を受け入れ、切り開く場所でもあるのだから」(遠山氏)、「メールではなく、対面で話を」(滝鼻氏)、「学校において、きちんとした態度での授業が日常化すれば、子どもたちの考える力をもっと養うことができるのではないか」(山折氏)、などの発言を受け、山根氏が「学校・家庭・地域・行政の役割を、それぞれの立場から提案していただいた。次の時代を担う子どもたちの健やかな成長に役立つよう、今日の心に残った意見を大切にし、子どもたちと向き合ってほしい」と締めくくりました。

時折飛び出すユニークな発言に、思わずほおがゆるむ場面も。ほぼ満員の会場には、熱心に耳を傾けメモを取る人たちの姿が目立ちました。